

「ナガエツルノゲイトウ対策に向けた環境安全性の高い防除技術の研究開発」

今井 博之 工学部学部生物学科 教授(植物機能制御学) 2026～2028年度

1 ナガエツルノゲイトウの確認

河川・水路におけるナガエツルノゲイトウの分布や繁茂状況を確認します。



ナガエツルノゲイトウの特徴
・南米原産の特定外来生物
・繁殖力が非常に強く、在来植物を覆い尽くし、生態系や利水に悪影響
・水面を被覆し、景観・流下能力も低下

早期発見・早期対策が重要です。

2 環境配慮型除草剤の散布 (ナガエツルノゲイトウへの選択的作用)

ナガエツルノゲイトウに効果の高い環境配慮型除草剤を、適切な時期・濃度・方法で散布します。



ナガエツルノゲイトウに高い効果を示し、水域環境への影響に配慮した製品を使用します。

3 効果の発現 (枯死・再生抑制)

除草剤の効果により、ナガエツルノゲイトウが枯死し、再生が抑制されます。



ナガエツルノゲイトウの枯死・再生抑制効果を確認し、継続的な管理計画につなげます。

4 試験区の設定と現地実証・環境評価・解析

河川・水路において、試験区(除草剤区・対照区)を設定し、現地実証試験を実施。水質・流況・生物相などの環境要因と防除効果との関係を解析するとともに、水域生物への影響を含めた統合的環境評価を行います。



調査・評価項目

水質	流況	生物相	防除効果	水域生物への影響

環境要因と防除効果の関係を解析し、生態系に配慮した適切な管理方法を検証します。

5 協働によるモニタリング体制の構築

自治体、NPO・地域住民と連携し、ナガエツルノゲイトウの再発状況や環境への影響を継続的にモニタリングします。



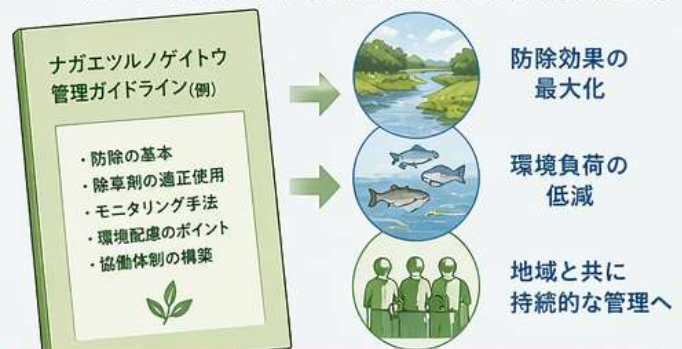
みんなで見守り、早期発見・早期対応につなげます。

モニタリング項目(例)

- ナガエツルノゲイトウの分布・再生状況
- 除草効果の持続性
- 水質・生きものの状況
- 河川利用状況・景観

6 管理手法の整理とガイドライン化への貢献

現場のニーズや制度的制約を踏まえ、効果的で環境にやさしいナガエツルノゲイトウの管理手法を整理し、ガイドライン化に貢献します。



実行可能で続けられる管理手法を広め、持続の健全な環境を未来へつなげます。

雑草をしっかりと抑えながら、水辺の自然や生きものを守る方法を目指します